

商社における不動産事業の魅力



佐久間 聖名子 (さくま みなこ)
住友商事株式会社
建設不動産本部
ビル事業部部長付

現在の業務内容

私は、1995年の入社以来、建設不動産本部に所属し、分譲マンションの開発事業、ショッピングセンターの開発・運営事業を経て、現在ビル事業部において国内でのオフィスビルの開発・運営事業と米国海外不動産事業の担当をしています。計画段階から竣工まで一貫して物件を担当するのが当社の進め方の特徴で、私自身、入社3年目から約5年間、臨海部の商業施設の開発を担当し、開発コンセプトに始まり、建物プランの検討、テナントリーシング、運営管理計画の立案、開業前準備、リニューアル計画などさまざまな業務を担当しました。初めてのことでばかりで苦労が多かったですが、担当者として責任を持って事業を遂行した経験が、自信につながっていると思います。

また、当社の不動産事業は歴史も古く、他不動産専門会社に引けを取らない規模で展開しており、例えば、オフィスビル事業は、現在の当社晴海本社の開発に続き、東京・神田地区などの重点エリアを定めて面開発していこうという大規模開発構想も掲げています。

建設不動産本部で働くことの魅力

商社における不動産部門ならではの強みとして、海外展開への注力や資機材部隊との連携が挙げられます。海外においては、アジアや米国を重点エリアとしてビル賃貸事業や住宅開発事業を行っていますし、派遣員のほか、トレイニー、語学研修生として、米国、中国にはほぼ毎年

人材を派遣しています。私自身、2006年から約1年間、トレイニーとして米国に派遣され、その間ニューヨークの大学院で不動産を学びました。折しも、不動産証券化などにより不動産のグローバル化が進み、また、サブプライム・ローン問題が表面化していた最中でしたので、米国の考え方、仕事の仕方を理解する一方、客観的に日本の不動産を見ることができたことは、とても有意義でした。多くの知識や経験を得て、現在の業務にも役立てることができています。また、資機材部隊との連携という点では、晴海本社建設プロジェクトでの清掃ロボットの開発などが挙げられます。こうした業務には、多くの知識や経験の蓄積が必要とされますが、より付加価値のある社会資産を創り出すという観点で、当社が目指す商社ならではの不動産事業は、とても魅力があると思います。

達成感を皆で分かち合う幸せ


仕事であっても、私生活であっても、達成感を得られて、それを皆で分かち合えた時ほど幸せを感じる瞬間はないと思います。ですから、大きなプロジェクトが完成した時などはもちろんですが、そうでなくても、例えば、プレゼン資料作りを数週間掛けて同僚や部下と作成し、プレゼンがうまくできたときなどは、打ち上げで飲みに行くなど、日々の業務でも節目を作るようにしています。当然、その場は盛り上がりますし、何よりチームワークがより強くなり、好循環が生まれる気がします。

目標は優良案件の創出

不動産の事業は、短いものでも2~3年、長いものと構想から完成まで20年以上かかる再開業事業なども少なくありません。つまり、自分の手掛けた仕事の結果が出るのが10年後、20年後ということを見ると、将来といってもあつという間なのですが、自分の手掛けた案件が後輩たちに感謝されるような優良案件となるように、ノウハウを蓄積して、責任を持って事業をマネージできるようになりたい、というのが目標とする自分の姿です。

後輩へのアドバイス

私が入社した1995年当時は、当社の基幹職女性は全社で10人程度でしたが、最近では、100人以上採用する基幹職新入社員の2割前後は女性です。若干大げさかもしれませんが、^{かくせい}隔世の

感あり、といったところでしょうか。また、建設不動産本部においても、私を含め5名の基幹職の女性が在籍していますし、設計会社や建設会社など、取引先とのミーティングに行っても、随分女性の姿を見掛けるようになりました。最近の新入社員は肩の力が抜けて自然体でうらやましいなあと感じることが多く、見習う部分がたくさんあります。従来ありがちであった「女性基幹職=優等生」ではない個性をどんどん伸ばしてほしいと思います。それから、これは、自分自身にいつも言い聞かせていることですが、良い仕事をするためには、会社では上司、同僚や部下など、私生活では家族や友人など、周囲の支えは不可欠だと思います。コミュニケーションを密にとって理解してもらうこと、また、支えてもらっているという感謝の気持ちを常に持つことが大切だと思います。 

事業所内保育所『住友商事チャイルドケア 「トリトンすくすくスクエア」』の開設

住友商事株式会社
人事部課長労務チーム
サブリーダー
本山ふじか (もとやま ふじか)

2008年10月、住友商事は、本社ビルに隣接する商業施設内に、当社および当社グループ会社社員向けの事業所内保育所を開設しました。

当社は近年、相当数の女性基幹職を採用していますが、貴重な人材が出産、育児等のライフイベントを理由に退職してしまうことのないように、必要な施策を検討するため、2006年4月に人事部内に女性活躍推進プロジェクトチームを立ち上げました。まずは、具体的なニーズを探るべく女性基幹職へのインタビューとアンケートを実施しましたが、そこで要望の強かった施策の一つが、事業所内保育所の設置です。通勤ラッシュの中、本当にお子さまを連れて来られるのか等々議論は

ありましたが、待機児童問題により、実際保育園に子供を預けられないのではと不安に思う社員も多く、そうした社員に対する両立支援策として開設を決断しました。同時に、住友商事グループとして「本気で女性社員に継続して活躍してもらいたいと思っている」という強いメッセージが出せたと思っています。

6月末現在で定員28名に対し16名のお子さまをお預かりしており、第二子出産や配偶者の体調不良時等の緊急対応としての一時保育も含め、男性社員にも積極的に利用してもらっています。グループ会社である住商ドラッグストアーズが展開する「トモズ」と提携し、おむつ等を保育園に直送するサービスや洗濯サービス等、当社事業所内保育所ならではのサービスも提供、床には木のぬくもりを感じられる桐材を採用、開口部を大きく取った窓から太陽が優しく降り注ぐ、とても明るいスペースになっています。利用者からも、「会社のすぐそばにあり、安心して預けられる」と大変好評で、お子さまの数も毎月順調に増加しています。お子さまたちの健やかな成長を見守りながら、引き続き住友商事グループで働く社員のワーク・ライフ・バランスを支援していきたいと思っています。

